

地震工学会
津波などの突発大災害からの避難の課題と対策に関する研究委員会
第14回研究委員会 議事録（案）

1. 日 時：2015年3月18日（水）10：00～12：10
2. 場 所：工学院大学（西新宿）25階セミナー室
3. 出席者：後藤，山本，荒木，生田，小山(H)，甲斐，佐藤，末松，高田，仲村，久田，村上(H)
4. 資 料：
 - 資料 14-1 第14回研究委員会 議事次第
 - 資料 14-2 第13回研究委員会 議事録（案）
 - 資料 14-3 欠番
 - 資料 14-4 津波避難実態調査資料収集分析部会 報告
 - 資料 14-5-1 2015委員会活動計画案
 - 資料 14-5-2 新宿駅周辺エリアを対象とした中心市街地における災害対応能力向上のための教育訓練プログラムの開発（平成26年度）報告書
 - 資料 14-5-3 工学院大学総合研究所と資源再研究センター最終成果報告会チラシ
 - 資料 14-7 国際交流WG活動報告
 - 資料 14-8 JAEE 避難の研究委員会パネル
 - 資料 14-9 第二回震災対策技術展（大阪）セミナー@グランフロント大阪
 - 資料 14-10 論文特集号進捗状況
 - 資料 14-11 予算の執行状況（2015.3.13）
 - 資料 14-12 欠番
 - 資料 14-13 2015年度委員会活動計画案
5. 議事内容：
 - 5.1 議事録確認（佐藤委員） [資料 14-1]
 - ・ 第13回研究委員会の議事録を確認した。
 - 5.2 講演「SIP（戦略的イノベーション創造プログラム）の活動状況・新宿防災訓練の紹介」（久田委員） [資料 14-5-1, 14-5-2]
 - 主な質疑は以下のとおりである。
 - ・ 防災訓練の規模が大きいですが、どのように準備・運営しているのか？
 - 人員を雇っている。
 - 新宿区が協力的で、事務局を担っているが、実際の発災時には事業者が対応する。
 - 段取りが大変なため、ノウハウと人のつながりが大切である。
 - ・ SIPを社会へどのように実装していくかが課題と思われる。他の自治体などに水平展開していくのか？
 - 他の地域でどのように使用するのかを提示するよう指示されている。
 - 3年で一定の成果、5年で最終成果が求められているが、毎年、報告会を実施するかどうかは未定である。
 - 自治体（都や区）の協力が不可欠で、協議会形式で取り組まないと実施が難しい。

- 地区を見る人がおらず，エリアマネージャーのような人が必要．個々の建物や地下街には防災センターがそれぞれにあるが，互いの連携が取れていない．
- 持続性を考えられるプロジェクトが大切である．
- ・ このような取り組みを海外に発信した方が良いのでは？
- 情報発信には，エリア防災センターのような組織でマネジメントする人が必要である．
- ・ 防災関係のアプリはすでに多くが開発されている．現状はあまり使われていないようだが？
- 防災だけだと普及しない．防災以外の要素を絡めないとうまくいかないと考える．
- ビジネスとして成立させないとうまく継続できないかもしれない．
- 例え防災だけでは続かないとしても，組織・仕組みづくりは重要である．
- ・ 資料 14-5-2 は，工学院大学ホームページで公開する予定である．

5.3 各部会の報告

(1) 津波避難部会（佐藤部会長）〔資料 14-4〕

- ・ 調査データの公開について，以下を部会で議論する．
 - 自由にデータをダウンロードできるようにするのか．登録制度が必要ではないか．
 - どの項目（選択回答・記述欄・避難経路など）を公開対象とするのか．
 - すべての項目を一度にアップすべきか？段階的にでも公開すべきではないか．
- ・ 本委員会の継続期間は地震工学会のページで公開し，委員会終了後は土木学会にも保管をお願いしたらどうか？
- ・ 中土佐は具体的に何をどこまで実施するのか明確にすべき．委員会としては，現地の大学等での取り組みをフォローするような形で携わった方が良いのではないか？
- ・ 地震工学会年次大会での津波避難 OS については，発表件数が集まるかが懸念される．
- ・ 特集号については最終報告書と関連させた形が良い．

(2) 都市避難部会（久田部会長）〔資料 14-5-1, 14-5-3〕

- ・ 論文集特集号「巨大都市における地震・水害等による複合災害対策の現状と課題」について，19 編（総説 3 編，論文 9 編，報告 6 編，寄稿 1 編）を基本構成とし，その他の公募も受け付ける．
- ・ 次回 3 月 23 日 10 時から部会を開催する予定である．
- ・ 3 月に予定していたシンポジウムを 5 月に延期して開催する予定である．

(3) シミュレーション部会（荒木委員・末松委員）

- ・ 地震工学会の研究会 Web ページに V&V マニュアルを掲載し，参加および実行を Web ページ上で受け付ける．
- ・ 現在，4 機関・社が V&V を実施している．この他に 2 機関から打診があった．
- ・ Web 掲載用のデータを佐藤委員へ渡し，地震工学会 IC 委員会と調整の上でアップする．過去に V&V を実施した交通工学研究会クリアリングハウスが参考になるだろう．

(4) 国際部会（村上部会長）〔資料 14-7〕

- ・ 留学生の参加を募って，意見交換する．
- ・ 16WCEE（2017 年 1 月 チリ・サンチャゴ）での避難特別セッションを提案する予定である．

5.4 震災対策技術展（横浜）の報告（後藤委員長）〔資料 14-8〕

- ・ 地震工学シンポジウム会場にて資料 14-8 を展示した．
- ・ V&V 公募について 1 社から問い合わせがあった．

- 5.5 震災対策技術展（大阪）の企画（生田委員）〔資料 14-9〕
- ・ 資料 14-9 の内容で準備を進めている。
- 5.5 論文集特集号（山本幹事長）〔資料 14-10〕
- ・ 番号が抜けているものは、申し込みがあったが論文提出されなかった。
 - ・ 返事のない執筆者に事務局から最速の連絡を入れていただく。
- 5.7 予算の執行状況（後藤委員長・山本幹事長）〔資料 14-11〕
- ・ 残額から、東北沿岸調査（3 月 24～26 日、後藤委員長・村上委員が参加）の旅費として、87,454 円を支出する。
- 5.8 2015 年度の計画（後藤委員長・山本幹事長）〔資料 14-13〕
- ・ 幹事会報告と委員会活動法計画案が提示された。

以上